

平成30年（2018年）度

滋賀県家畜保健衛生所業務概要

2019

滋賀県家畜保健衛生所

本所

〒523-0813
滋賀県近江八幡市西本郷町226-1
TEL 0748-37-7511 (代)
FAX 0748-37-4821
E-mail:ge37@pref.shiga.lg.jp

北西部支所

〒520-1611
滋賀県高島市今津町弘川249-1
TEL 0740-22-2145 (代)
FAX 0740-22-6681

目 次

I	家畜保健衛生所の概要	
1	沿革	1
2	管轄	2
3	位置および交通	2
4	組織および事務分掌	3
5	職員名簿	4
6	施設の概要	5
1)	用地および建物	5
2)	建物配置図	6
7	主要物品整備状況	7
1)	主要備品	7
2)	自動車管理状況	8
8	管内の概要	9
1)	地域の特徴	9
2)	畜産の概況	9
II	平成30年度事業実績	
1	家畜防疫に関する事業	11
1)	家畜伝染病予防事業	11
(1)	総括表	11
(2)	家畜伝染病等発生状況	12
(3)	精密検査	13
(4)	立入検査	20
(5)	証明書発行状況	20
(6)	輸出入検疫対象家畜検査状況	21
2)	自衛防疫・自主管理強化総合対策	21
(1)	地域家畜自衛防疫推進協議会	21
(2)	特定疾病損耗防止事業	22
2	家畜検査事業	23
1)	病性鑑定実績	23
(1)	解剖・剖検実施状況	24
(2)	精密検査・調査実施状況	25
3	家畜衛生に関する事業	26
1)	牛海綿状脳症（BSE）検査・清浄化推進	26
2)	監視・危機管理体制整備対策	26
(1)	家畜伝染病防疫対応強化	26
(2)	家畜衛生関連情報の整備	26
(3)	まん延防止円滑化対策	27
(4)	病性鑑定ネットワークの構築	28

(5) 特定家畜伝染病防疫指針に基づく防疫措置	29
3) 生産性向上対策	30
(1) 慢性疾病等生産性を阻害する疾病の低減	30
4) 畜産物の安全性向上	31
(1) 生産衛生管理体制整備	31
(2) 鶏卵衛生管理体制整備	31
(3) 動物用医薬品危機管理対策	32
(4) 飼料安全性・品質改善対策	32
4 大家畜（乳用牛・肉用牛）の飼養管理技術指導	33
1) 飼養衛生管理技術指導	33
(1) 繁殖検診	33
(2) 乳用牛群検定の推進	33
(3) 研修会の開催	33
2) 家畜改良の推進	33
5 動物薬事	34
1) 申請・届出等の状況	34
(1) 市町別業者数	34
(2) 申請・届出の事務処理状況	35
2) 薬事監視強化事業	35
(1) 立入検査状況	35
6 獣医事	36
1) 届出状況	36
(1) 飼育動物診療施設	36
(2) 事務処理状況	36
2) 立入検査状況	36
7 家畜改良増殖事業	37
1) 家畜人工授精に関する業務	37
(1) 家畜人工授精師免許関係事務	37
(2) 家畜人工授精所開設等届出	37

III 参考資料

1 学会・業績等の発表	38
2 講習会等受講状況	38
1) 家畜衛生講習会	38
2) 家畜衛生研修会	39
3) 中央畜産技術研修会	39
4) 動物用医薬品危機管理対策研修会	39
5) その他	39
3 家畜衛生関係手数料	40
4 家畜飼養状況の概要	42

I 家畜保健衛生所の概要

I 家畜保健衛生所の概要

1 沿革

家畜保健衛生所法（昭和25年3月18日法律第12号）に基づき、滋賀県家畜保健衛生所条例（昭和25年10月3日滋賀県条例第60号、平成21年4月1日廃止）、滋賀県行政機関設置条例（平成21年1月23日滋賀県条例第1号）により設置。

- | | | |
|-------|-----|--|
| 昭和26年 | 4月 | 坂田郡春照村に湖北家畜保健衛生所を設置（管轄:長浜市、坂田郡、東浅井郡）高島郡今津町に湖西家畜保健衛生所を設置（管轄:高島郡） |
| | 8月 | 甲賀郡水口町に甲賀家畜保健衛生所を設置（管轄：甲賀郡）
栗太郡治田村に湖南家畜保健衛生所を設置（管轄：栗太郡、野洲郡） |
| | 12月 | 彦根市に湖東家畜保健衛生所を設置（管轄：彦根市、犬上郡、愛知郡） |
| 昭和30年 | 9月 | 機構改革により、畜産奨励業務を併せて実施することとなる
蒲生郡北比都佐村の種畜場（現畜産技術振興センター）内に日野家畜保健衛生所を設置（管轄：近江八幡市、八日市市、蒲生郡、神崎郡）
大津市の県庁内に大津家畜保健衛生所を設置（管轄：大津市） |
| 昭和31年 | 5月 | 湖北家畜保健衛生所が春照村から長浜市勝町に移転 |
| 昭和32年 | 5月 | 日野家畜保健衛生所が近江八幡市に移転し、中部家畜保健衛生所と改称 |
| 昭和34年 | 12月 | 大津家畜保健衛生所が滋賀郡堅田町に移転し、滋賀家畜保健衛生所と改称 |
| 昭和36年 | 4月 | 伊香郡木之本町に伊香郡を管轄する湖北家畜保健衛生所木之本支所を設置 |
| 昭和38年 | 8月 | 長浜市小堀町に湖北家畜保健衛生所を新築移転 |
| 昭和39年 | 2月 | 湖西家畜保健衛生所庁舎を新築 |
| 昭和40年 | 5月 | 栗太郡栗東町小柿に湖南家畜保健衛生所を新築移転 |
| 昭和43年 | 4月 | 機構改革により、畜産奨励業務は県事務所に移行することとなる
甲賀と湖南の両家畜保健衛生所を統合し、甲賀郡水口町に湖南家畜保健衛生所を整備
湖東と中部の両家畜保健衛生所を統合し、近江八幡市西本郷町に湖東家畜保健衛生所を整備
湖北家畜保健衛生所木之本支所は本所に統合 |
| 昭和44年 | 3月 | 甲賀郡水口町名坂に湖南家畜保健衛生所を新築移転 |
| 昭和45年 | 3月 | 近江八幡市西本郷町に湖東家畜保健衛生所を新築 |
| 昭和47年 | 3月 | 滋賀家畜保健衛生所を廃止し、湖南家畜保健衛生所に統合 |
| | 4月 | 機構改革により、畜産課内に病性鑑定係を設け、県庁別館に試験室を設置 |
| 昭和55年 | 3月 | 病性鑑定施設を湖東家畜保健衛生所敷地内に新築移転 |
| 昭和57年 | 4月 | 機構改革により、病性鑑定係は湖東家畜保健衛生所に組織替え |
| 平成6年 | 4月 | 畜産関係組織再編整備により、湖南、湖東、湖北、湖西の4家畜保健衛生所を廃止し、新たに県下全域を統括する滋賀県家畜保健衛生所を近江八幡市西本郷町（旧湖東家畜保健衛生所施設）に設置
併せて、滋賀県家畜保健衛生所内に家畜検査センターを設置して畜産物の品質、安全性検査の充実を図る |
| 平成12年 | 4月 | 「地方分権法」の施行に伴う県組織の改革により、グループ制が導入され、保健衛生と防疫の2グループを設置 |

- 平成17年 4月 緊急時の防疫対応を充実するため、畜産技術振興センター西部指導所を高島市、大津市、滋賀郡および湖北地域（米原市を除く）を管轄する家畜保健衛生所北西部支所に組織改編するとともに、畜産技術振興センターの技術指導業務を兼務することとなる
- 平成22年 3月 家畜検査センター施設を新築
- 8月 滋賀県家畜保健衛生所本所を改修
- 平成23年 1月 旧検査センターを BSE 検査室、冷蔵庫室および資材倉庫に改修
- 平成27年 1月 滋賀県家畜保健衛生所北西部支所の事務所を本館から別館に移転
- 平成28年 4月 県組織の改編により、係制が導入され、安全対策係、衛生指導係と防疫係の3係を設置

2 管 轄

本所と北西部支所の管轄地域は以下のとおりとなっている。

家畜保健衛生所	農業農村振興事務所	管 轄 市 町
本 所	大津・南部のうち	草津市、守山市、栗東市、野洲市
	甲 賀	甲賀市、湖南市
	東近江	近江八幡市、東近江市、日野町、竜王町
	湖 東	彦根市、愛荘町、豊郷町、甲良町、多賀町
	湖 北のうち	米原市
北西部支所	大津・南部のうち	大津市
	湖 北のうち	長浜市
	高 島	高島市

3 位置および交通

【本所】

近江八幡市西本郷町226番地の1 郵便番号 523-0813
 電 話：(0748)37-7511 FAX：(0748)37-4821
 交通：JR西日本 琵琶湖線（東海道本線）近江八幡駅下車 徒歩7分

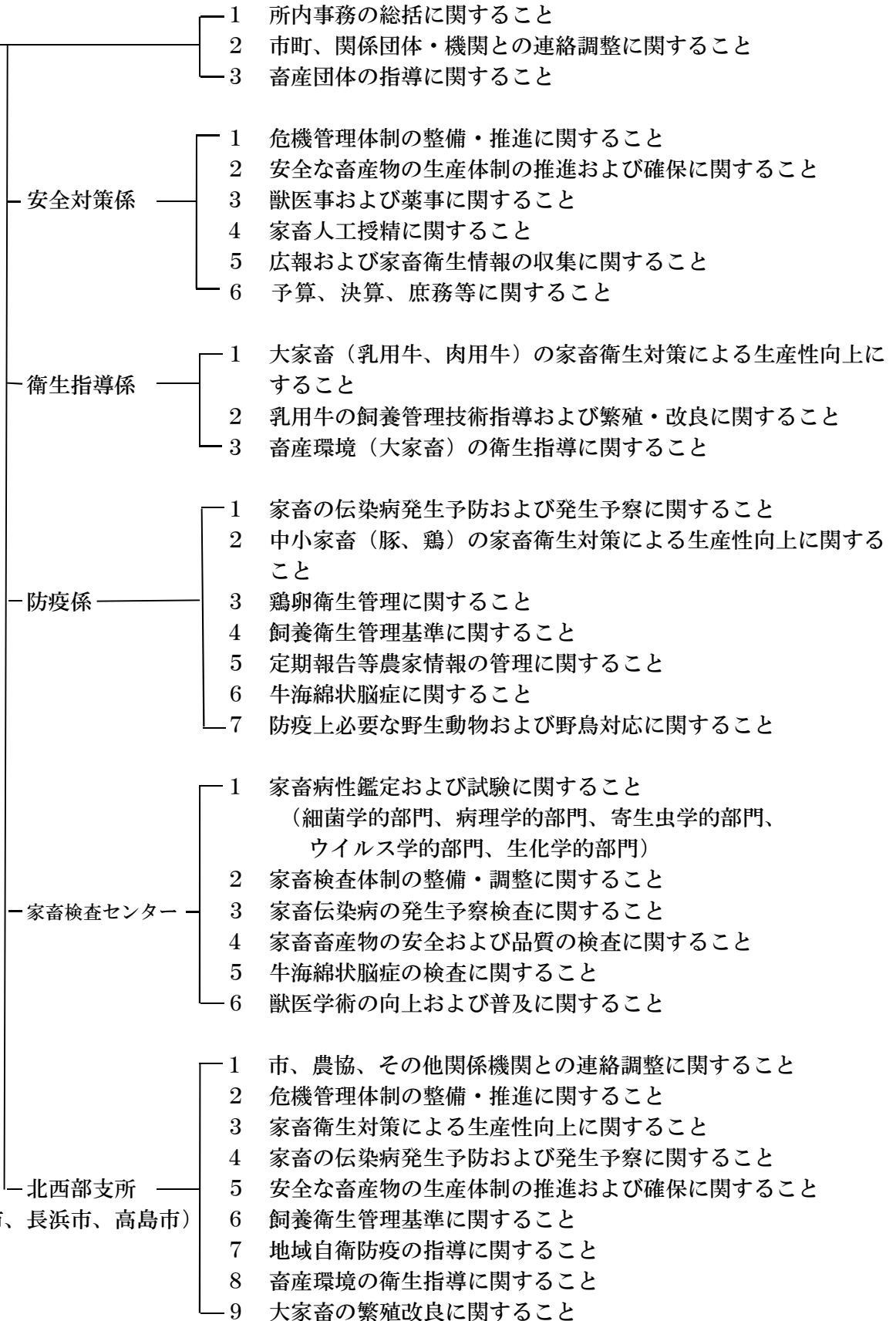
【北西部支所】

高島市今津町弘川249番地の1 郵便番号 520-1611
 電 話：(0740)22-2145 FAX：(0740)22-6681
 交通：JR西日本 湖西線近江今津駅下車 徒歩15分

4 組織および事務分掌

所 長

次 長



北西部支所
(大津市、長浜市、高島市)

5 職員名簿

所 長	谷 浩	次 長	渡邊 直人
-----	-----	-----	-------

安全対策係

主 幹 (係長)	藤井 賢一
主 査	福山 綾
主任技師	小森 雅子
主任技師	宮田 朋香

防疫係

主 幹 (係長)	平澤 康伸
主 査	宮坂 光徳
主任技師	金谷 須美礼
技 師	葭谷 健一

衛生指導係

係 長	加藤 真由子
主 査	諸岡 剛俊
主任技師	坪根 麻由子
主任技師	松村 一輝
主任技師	瀬川 敬世
技 師	木村 貞

家畜検査センター

所 長	布藤 雅之
主 査	内本 智子 (ウイルス学的部門、生化学的部門)
主 査	山本 逸人 (病理学、寄生虫病学の部門)
主任技師	川副 千晶 (細菌学的部門)
技 師	古川 桃子 (ウイルス学的部門)

北西部支所

支 所 長	橋本 久彦
副 主 幹	富澤 泰
主 査	根本 智
技 師	佐伯 和紀

6 施設の概要

1) 用地および建物

【本 所】

敷地面積 2,116.33 m²

建 物

本館	(鉄筋コンクリート造2階建)	369.22 m ²
家畜検査センター	(鉄筋コンクリート造2階建)	463.93 m ²
焼却炉棟		40.59 m ²
解剖室	(解剖室棟)	48.56 m ²
BSE 検査室	(解剖室棟)	49.16 m ²
冷蔵庫室(前室含む)	(倉庫棟)	71.30 m ²
資材倉庫書庫	(倉庫棟)	98.45 m ²
動物飼育室		18.00 m ²
上屋(1) S61		18.80 m ²
上屋(2) H22		22.40 m ²

計 8棟 1,200.41 m²

【北西部支所】

敷地面積 3,946.31 m²

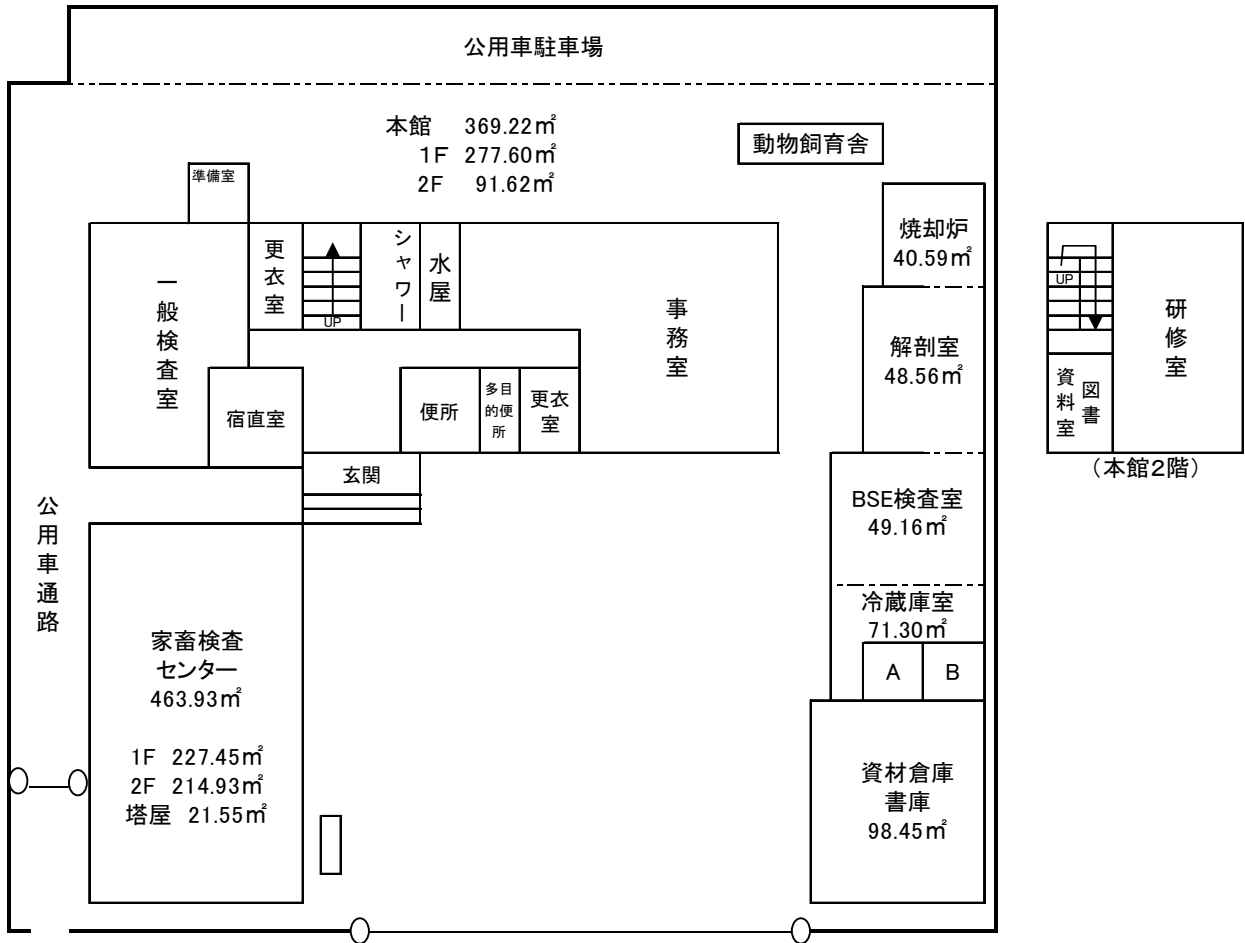
建 物

本館	(鉄筋コンクリート造平屋建)	180.00 m ²
別館	(鉄筋コンクリート造2階建)	348.94 m ²
書庫および解剖室	(補強コンクリートブロック平屋建)	43.77 m ²
車庫	(鉄骨折半平屋建)	33.63 m ²

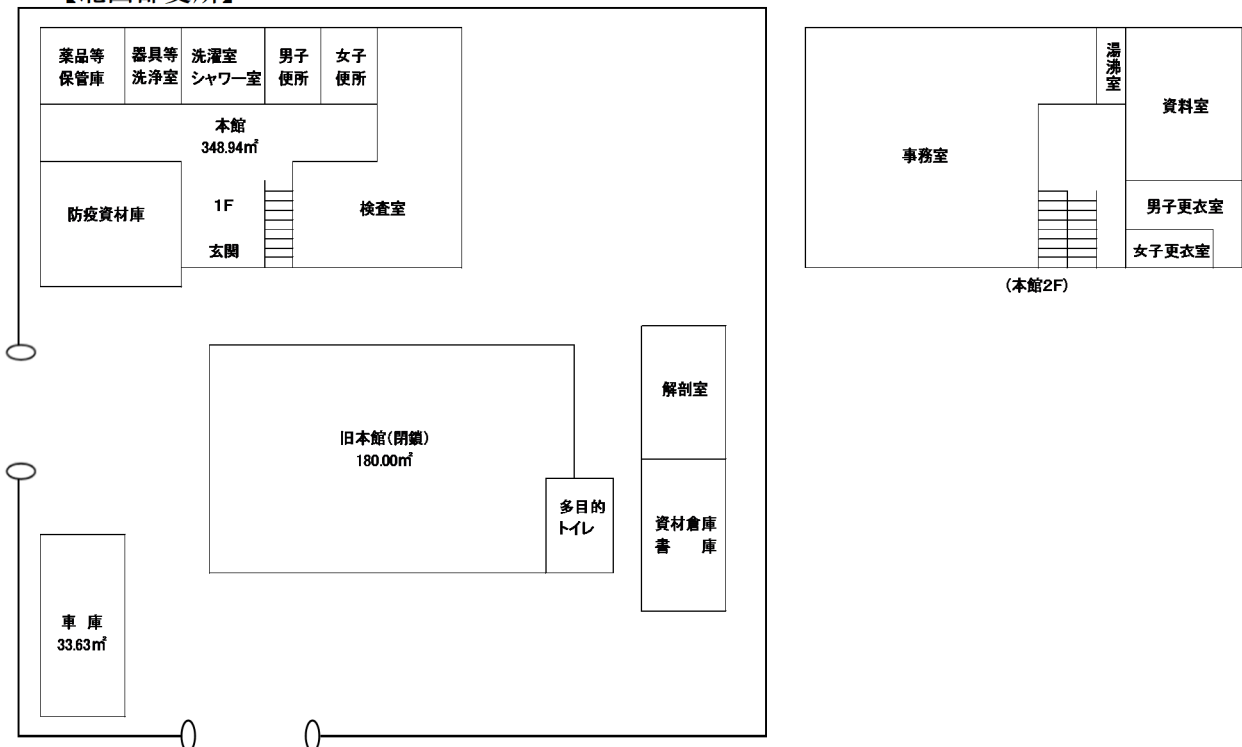
計 4棟 606.34 m²

2) 建物配置図

【本所】



【北西部支所】



7 主要物品整備状況

1) 主要備品

品名	規格・型式	数量	取得年月日	備考
デンストメーター	HAD-501 型	1	S61.10.17	平沼
組織回転培養装置	HDR-12-T	1	H 6. 9.29	ヒラサワ
排気式流し台	MAE-150	1	H 6.11.11	カヤガキ
電気泳動装置	CHEF-DR II	1	H 9.12.25	バイオラッド ラボラトリス
電気泳動画像解析システム	AGFA ARCUS2	1	H10.11.27	東洋紡
凍結切片作製装置	LEX-6100	1	H12. 8. 3	ヤマト
多項目血清検査機器	3500V	1	H13.10. 5	富士
超低温フリーザー	MDF-493AT	1	H14. 1.15	サンヨー
自動包埋装置	RE-12DM-2	1	H14. 1.15	サクラ
マイクロプレートリーダー	405	1	H14. 1.15	大日本製薬
石灰乳塗布用消毒器	ホ'ラント' E	1	H14. 1.22	富士平
原子吸光光度計	A-1000	1	H14.10.30	日立
動物性廃棄物焼却炉	NS-30SD	1	H15. 3.24	不二越
高速液体クロマトグラフ	L-2000	1	H15. 9.10	日立
高速液体クロマトグラフ 蛍光検出器	L-2000	1	H16.12. 9	日立
超低温フリーザー	MDF - 792AT	1	H17. 3.18	サンヨー
リアルタイムPCRシステム	7500-1	1	H18. 3. 7	アプライド バイオシステムズ
落射蛍光顕微鏡および撮影装置	BX51	1	H20. 2.27	オリンパス
ドラフトチャンバー	CBR-Vc21-FN	1	H22. 3.19	島津
バイオハザード対策用 安全キャビネット	SCV-1307EC II AB3	2	H22. 3.25	日立
プレハブ式冷蔵庫	UCL-P5	1	H22.10.19	三菱電機
ビーズ式多検体細胞破碎装置	MB901U(S)	1	H23. 9.20	安井器械
分光分析装置（吸光度測定用マ イクロプレートリーダー）	51119250/M	1	H25. 9. 12	サーモフィシヤール
全自動血球計数器	MEK-6450	1	H26. 6. 19	日本光電
バイオハザード対策用 安全キャビネット	BHC-1307 II A2	1	H27. 6. 19	日本エアテック
密閉式自動固定包埋装置	ティシュー・テック VIP- 5	1	H28. 9. 16	サクラファインテックジ ャパン
パラフィン包埋ブロック作 成装置	ティシュー・テック TEC-P	1	H28. 9. 01	サクラファインテックジ ャパン
サーマルサイクラー	サーマルフィッシャー/ 4484073/	1	H29. 7. 27	サーモフィシヤール
リアルタイムPCRシステ ム	サーモフィッシャーサイエンフ イテック/Quant Studio3	1	H30. 8. 1	サーモフィシヤール

取得金額 1,000,000 円以上

2) 自動車管理状況

【本所】

車種 (排気量)	登録番号	取得 年月日	配車 年月日	総走行キロ数 km
普通貨物自動車 1990cc	11 た 3757	H7.2.2	H7.2.2	20,999
小型貨物車 1290cc	400 せ 2181	H16.6.4	H16.6.4	121,507
小型貨物車 1780cc	400 せ 6676	H17.7.4	H17.7.4	49,976
小型貨物車 1490cc	400 そ 804	H18.6.19	H18.6.19	134,199
小型貨物車 1490cc	400 そ 4722	H19.6.8	H19.6.8	142,169
小型貨物車 1490cc	400 す 8044	H15.5.27	H27.4.1	139,795
小型乗用車 1300cc	501 ち 6071	H22.11.20	H22.11.20	52,898

【北西部支所】

車種 (排気量)	登録番号	取得 年月日	配車 年月日	総走行キロ数 km
軽自動車乗用 650cc	50 と 4026	H9.6.13	H17.11.2	119,275
小型貨物車 1490cc	400 そ 7985	H20.6.2	H20.6.2	135,428

8 管内の概要

1) 地域の特徴

滋賀県は日本列島のほぼ中心に位置し、東南は三重県、東は岐阜県、西は京都府、北部を福井県に接し、近畿地域の北端部に当たる。県土中央に我が国最大の淡水湖である琵琶湖が横たわり、全面積（4,017 km²）の約1/6を占めている。

本県の気候は、近江盆地を形成し、琵琶湖の影響を受けて温和なものになっており、全体としておおむね内陸的な特徴があるものの、県南部は瀬戸内型、北西部は北陸型、東北部は東海型気候の影響を受け、地域的変化に富んでいる。このため、北西部は豪雪に見舞われる年があり、南部には干ばつに備えた溜池も多い。

琵琶湖に由来する「近つ淡海（あわうみ）」近江の国は、古くから農耕文化が発達するとともに、我が国の東西、南北を結ぶ交通の要衝として、主要な街道が走っていた。現在も、物資輸送の大動脈である幹線道路や鉄道を通じ、交通網の要となっている。また、全国でも数少ない人口増加県の1つであり、京阪神のベッドタウンとして開発が進み、県南部、東部を中心に農業地帯の都市化、混住化が進行している。

本県農業は、古来から稲作が中心で、全耕地面積51,700haのうち水田が92.7%となっている（平成30年耕地面積調査）。農家戸数は20,183戸で、うち主業農家は7.7%であり、また基幹的農業従事者は農業就業人口25,346人の46.0%となっている（2015年農林業センサス）。県の農業産出額は647億円であり、畜産は109億円で16.9%を占め、米の56.0%（362億円）、野菜の19.0%（123億円）に次ぎ、第3位となっている（平成29年生産農業所得統計）。

2) 畜産の概況

平成31年2月1日現在の飼養戸数・頭羽数は、乳用牛47戸2,705頭、肉用牛89戸20,262頭、豚12戸4,096頭、採卵鶏33戸366,046羽、肉用鶏11戸79,504羽である。農家は、その大多数が主業農家であり、かつ自立経営体であるが、就業者の高齢化と後継者不足に加え、畜産物の消費低迷、飼料価格高騰等から、いずれの畜種においても取り巻く環境は厳しいものがある。

大家畜は、1戸当たり飼養頭数が、乳用牛57.6頭、肉用牛227.7頭と大規模化している。また、豚、採卵鶏、肉用鶏では、経営規模は小さいものの地場消費と結びついた堅実な経営が見られる。

乳用牛

本県の酪農は、京阪神の大消費地を控え、飲用牛乳向けを中心とした生乳生産を行っており、稲作との複合経営が主体となっている。飼養農家は東近江地域に最も多く、甲賀、湖西地域がこれに次ぐ。

畜主の高齢化等により、前年に比べ、飼養戸数は3戸減少し、飼養頭数は108頭減少した。

肉用牛

本県の肉用牛は、肥育経営が主体であり、東近江地域を中心に営まれている。特に、黒毛和種は、産地から素牛を導入し、高度な肥育技術で高品質な肉牛に仕上げるのが特徴で、「近江牛」の銘柄で全国的にも知られており、さらなるブランド力の向上に農家および関係機関が積極的に取り組んでいる。東近江地域では、黒毛和種の繁殖から肥育までの一貫経営が徐々に拡大している。

また、マカオ、シンガポール、タイ、フィリピン、ベトナム、ミャンマー、台湾に向けて、県内の食肉センターから輸出が行われている。

前年に比べ、飼養戸数は5戸減少し、飼養頭数は585頭増加した。なお、1戸当たりの飼養頭数は227.7頭であり、全国のトップレベルにある。

豚

本県の養豚は、水稲との複合経営が主体となっており、東近江地域を中心として繁殖・肥育一貫経営を展開している。肥育専門の経営はわずかで規模も小さい。畜主の高齢化、周辺都市化により飼養戸数は減少傾向であるが、食品製造副産物を飼料に用いた経営体では、さらなる規模拡大が進められている。

前年に比べ、飼養戸数は2戸増加し、飼養頭数は267頭増加した。1戸当たり飼養頭数は341.3頭となっている。

採卵鶏

全国的に見て本県の経営規模は小さく、水稲との複合経営が中心となっているが、地場消費と結びついて有利な販売を行う経営が多い。飼養農家の所在は東近江地域が中心となっている。

前年に比べ、100羽以上の飼養戸数は2戸減少したが、飼養羽数は1,084羽増加した。

肉用鶏

小規模農家が多く、東近江、甲賀、湖東地域を中心に食鶏販売と結びついた経営を行っている農家が多い。滋賀県畜産技術振興センターで開発された特産鶏「近江しゃも」は需要が固定してきており、販路の拡大・安定を模索している。

前年に比べ、100羽以上の飼養戸数は増減なく、飼養羽数は8,062羽減少した。

馬

湖南地域の栗東市には日本中央競馬会(JRA)のトレーニングセンターがあり、常時2,000頭前後の競走馬が繋養されている。甲賀、東近江地域を含めた周辺地域には牧場が散在し、これらを含め総数は3,557頭となっている。

蜜蜂

本県には業として転飼養蜂を営む者は少なく、レンゲ、トチ、その他雑蜜を対象に県内で移動または定置採蜜する養蜂家と、ハウス果菜や果樹の交配用に飼育する農家など87戸、1,384群が飼育されている。

Ⅱ 平成30年度 事業実績

Ⅱ 平成30年度事業実績

1 家畜防疫に関する事業

家畜伝染病予防法（昭和26年法律第166号、以下「法」という。）に基づく検査等を実施するとともに、自衛防疫組織による予防接種や事業の推進を指導するなど、家畜伝染性疾病の発生の未然防止に重点をおいた事前対応型の防疫体制の維持に努めた。

1) 家畜伝染病予防事業

家畜伝染病等の発生予防ならびにまん延防止のための検査を、次のとおり実施した。

(1) 総括表

区分	疾病名	対象家畜	実施頭羽群数		根拠法令
			実頭数	延頭数	
精 密 検 査	牛海綿状脳症	牛	109	109	特措法
	結核病	〃	17	17	51条
	ブルセラ病	〃	27	27	51条
	牛ヨーネ病	〃	3,275	3,275	5、51条
	牛流行熱	〃	45	180	5条
	イバラキ病	〃	53	190	〃
	アカバネ病	〃	54	191	〃
	チュウザン病	〃	53	190	〃
	アイノウイルス感染症	〃	54	191	〃
	牛白血病	〃	3,684	3,275	51条
	牛ウイルス性下痢・粘膜病	〃	3,066	3,066	〃
	牛ロタウイルス病	〃	7	7	〃
	牛パラインフルエンザ	〃	45	45	〃
	牛RSウイルス病	〃	46	46	〃
	牛伝染性鼻気管炎	〃	5	5	〃
	豚コレラ	豚	313	313	51条
	オーエスキー病	〃	159	159	〃
	豚繁殖・呼吸障害症候群	〃	161	161	〃
	豚インフルエンザ	〃	2	2	〃
	高病原性鳥インフルエンザ(抗体)	鶏	790	794	5条
	高病原性鳥インフルエンザ(ウイルス分離)	〃	360	360	〃
	ひな白痢(種鶏)	〃	102	102	〃
	マイコプラズマ病(MG)(種鶏)	〃	102	102	51条
	マイコプラズマ病(MS)(種鶏)	〃	102	102	〃
	ニューカッスル病(種鶏)	〃	22	22	〃
	ニューカッスル病	〃	80	80	〃
	高病原性鳥インフルエンザ(簡易検査)	〃	37	37	〃
マレック病	〃	14	14	〃	
高病原性鳥インフルエンザ	あひる	10	10	〃	
腐蛆病	蜜蜂	624	624	〃	
伝達性海綿状脳症	緬羊・山羊	28	28	〃	

区分	疾 病 名	対象家畜	実施頭羽群数		根拠法令
			実頭数	延頭数	
臨床検査	牛伝染性疾病	牛	19,136	19,136	51条
	豚伝染性疾病	豚	5,730	5,730	〃
	鶏伝染性疾病	鶏	851,390	851,390	〃
	緬羊・山羊伝染性疾病	緬羊・山羊			
	あひる伝染性疾病	あひる	8,800	8,800	〃
	馬伝染性疾病	馬	691	691	〃

(2) 家畜伝染病等発生状況

①家畜伝染病 法第2条第1項の規定による疾病

病 名	家畜の種類	発生または届出年月日	発生頭羽群数
牛ヨーネ病	牛	平成30年10月12日	2
牛ヨーネ病	牛	平成30年11月26日	1
豚コレラ	豚	平成31年 2月 6日	699
牛ヨーネ病	牛	平成31年 3月26日	1

②家畜伝染性疾病 法第4条第1項に規定による届出義務のある疾病

病 名	家畜の種類	発生または届出年月日	発生頭羽群数
牛白血病	牛	平成30年 4月18日	1
牛白血病	牛	平成30年 5月 2日	1
牛白血病	牛	平成30年 5月 8日	1
牛白血病	牛	平成30年 5月16日	1
マレック病	鶏	平成30年 5月24日	3
マレック病	鶏	平成30年 6月12日	2
牛白血病	牛	平成30年 6月20日	1
牛白血病	牛	平成30年 7月11日	1
牛白血病	牛	平成30年 7月12日	1
牛白血病	牛	平成30年 7月18日	1
牛白血病	牛	平成30年 8月17日	1
牛白血病	牛	平成30年 8月20日	1
牛白血病	牛	平成30年 9月 4日	1
マレック病	鶏	平成30年 9月13日	3
牛白血病	牛	平成30年 9月13日	1
牛白血病	牛	平成30年 9月28日	1
レプトスピラ症	犬	平成30年 9月29日	1
牛白血病	牛	平成30年10月25日	1
マレック病	鶏	平成30年10月30日	3

牛白血病	牛	平成30年11月20日	1
牛白血病	牛	平成30年11月30日	1
牛白血病	牛	平成30年12月4日	1
牛白血病	牛	平成30年12月14日	1
レプトスピラ症	犬	平成30年12月19日	1
牛白血病	牛	平成30年12月27日	2
牛白血病	牛	平成31年1月7日	1
牛白血病	牛	平成31年1月15日	1
マレック病	鶏	平成31年1月16日	1
伝染性気管支炎	鶏	平成31年1月23日	5
牛白血病	牛	平成31年1月31日	2
レプトスピラ症	犬	平成31年2月2日	1
マレック病	鶏	平成31年3月12日	1
アカリダニ症	蜂	平成31年3月12日	17
牛白血病	牛	平成31年3月14日	1

(3) 精密検査

a 牛海綿状脳症対策特別措置法、および家畜伝染病予防法第5条に基づき、下記の検査を実施した。

①牛海綿状脳症検査

牛海綿状脳症対策特別措置法に基づき、牧場等において発生した48カ月齢以上の死亡牛について、検査を実施した。

市 町 名	検 査 頭 数			検 査 結 果		
	乳用牛	肉用牛	計	患 畜	疑似患畜	健 康
愛荘町	2	0	2	0	0	2
近江八幡市	30	2	32	0	0	32
大津市	1	0	1	0	0	1
甲賀市	17	2	19	0	0	19
高島市	23	0	23	0	0	23
豊郷町	2	0	2	0	0	2
長浜市	2	0	2	0	0	2
東近江市	12	2	14	0	0	14
彦根市	3	0	3	0	0	3
日野町	4	2	6	0	0	6
米原市	5	0	5	0	0	5
合 計	101	8	109	0	0	109

②牛のヨーネ病検査

県下の乳用牛および肉用牛の繁殖牛を対象に実施した。

市 町 名	検査戸数	検査頭数	検 査 結 果		
			患 畜	疑似患畜	健 康
近江八幡市	18	1,028	0	0	1,028
草津市	1	8	0	0	8
甲賀市	8	490 (1)	1	0	489
高島市	4	566 (7)	2	0	564
長浜市	1	20	0	0	20
日野町	8	456 (1)	0	0	456
竜王町	1	144	0	0	144
合 計	41	2,712 (9)	3	0	2,709 (6)

注：()は再検査頭数

③牛流行熱、イバラキ病、アカバネ病、チュウザン病およびアイノウイルス感染症の発生予察検査
発生予察のため、ワクチン未接種の未越夏牛の抗体検査を実施した。

市 町 名	検査戸数	検査頭数	抗 体 検 査 結 果				
			牛流行熱	イバラキ病	アカバネ病	チュウザン病	アイノウイルス感染症
近江八幡市	2	5	0	0	0	0	0
大津市	1	2	0	0	0	0	0
甲賀市	3	14	0	0	0	0	0
高島市	2	4	0	0	0	0	0
長浜市	1	3	0	0	0	0	0
東近江市	4	10	0	0	0	0	0
彦根市	1	1	0	0	0	0	0
日野町	1	6	0	0	0	0	0
合 計	15	45	0	0	0	0	0

④高病原性鳥インフルエンザのモニタリング調査

大津市、甲賀市、および日野町の養鶏場を対象にモニタリング調査を実施した。

月	採材羽数	抗体検査結果		ウイルス分離検査結果	
		陽 性	陰 性	陽 性	陰 性
4	30	0	30	0	30
5	30	0	30	0	30
6	30	0	30	0	30
7	30	0	30	0	30
8	30	0	30	0	30
9	30	0	30	0	30
10	30	0	30	0	30
11	30	0	30	0	30
12	30	0	30	0	30
1	30	0	30	0	30
2	30	0	30	0	30
3	30	0	30	0	30
合 計	360	0	360	0	360

⑤ひな白痢

県下に飼育されている種鶏を対象に、抗体検査を実施した。

市 町 名	検査戸数	検査羽数	検 査 結 果		
			陽 性	疑陽性	陰 性
日野町	1	102	0	0	102

b 法第51条に基づき、下記の検査を実施した。

①牛の結核病検査

県下の乳用牛を対象に実施した。

市 町 名	検査戸数	検査頭数	検 査 結 果		
			患 畜	疑似患畜	健 康
高島市	2	17	0	0	17
合 計	2	17	0	0	17

②牛のブルセラ病検査

県下の乳用牛を対象に実施した。

市 町 名	検査戸数	検査頭数	検 査 結 果		
			患 畜	疑似患畜	健 康
近江八幡市	1	1	0	0	1
甲賀市	1	7	0	0	7
高島市	2	17	0	0	17
東近江市	1	2	0	0	2
合 計	5	27	0	0	27

③牛のヨーネ病検査

発生農家の清浄化確認のため同居牛を対象に、まん延防止のため導入および譲渡等の移動させる牛を対象に実施した。

市 町 名	検査戸数	検査頭数	検 査 結 果		
			患 畜	疑似患畜	健 康
近江八幡市	3	14	0	0	14
甲賀市	2	116	1	0	115
高島市	4	284	0	0	284
東近江市	5	26	0	0	26
日野町	5	98	0	0	98
竜王町	1	14	0	0	14
合 計	20	552	1	0	551

④牛白血病検査

県下で飼育されている牛を対象に、検査を実施した。

市 町 名	検査戸数	検査頭数	検 査 結 果		
			陽 性	陰 性	陽性率(%)
近江八幡市	20	1,233	266	967	21.6
甲賀市	11	839	518	321	61.7
高島市	5	612	257	355	42.0
長浜市	1	20	8	12	40.0
東近江市	10	102	26	76	25.5
日野町	10	707	155	552	21.9
米原市	1	9	9	0	100
竜王町	3	160	32	128	20.0
合 計	61	3,682	1,271	2,411	34.5

⑤牛ウイルス性下痢・粘膜病

県下で飼育されている牛を対象に、検査を実施した。

市 町 名	検査戸数	検査頭数	検 査 結 果		
			陽 性	陰 性	陽性率(%)
近江八幡市	20	1,107	0	1,107	0
甲賀市	9	519	0	519	0
高島市	4	599	1	598	0.2
豊郷町	1	1	0	1	0
長浜市	1	20	0	20	0
東近江市	9	70	0	70	0
日野町	10	586	0	586	0
竜王町	3	164	0	164	0
合 計	57	3,066	1	3,065	0

⑥牛ロタウイルス病

市 町 名	検査戸数	検査頭数	検 査 結 果		
			陽 性	陰 性	陽性率(%)
近江八幡市	2	2	1	1	50.0
甲賀市	1	1	0	1	0
高島市	1	1	0	1	0
豊郷町	1	1	0	1	0
東近江市	2	2	0	2	0
合 計	7	7	1	6	14.3

⑦牛パラインフルエンザ

市 町 名	検査戸数	検査頭数	検 査 結 果		
			陽 性	陰 性	陽性率(%)
近江八幡市	5	5	0	5	0
高島市	1	19	0	19	0
東近江市	1	3	0	3	0
日野町	1	8	0	8	0
竜王町	2	10	0	10	0
合 計	10	45	0	45	0

⑧牛RSウイルス病

市 町 名	検査戸数	検査頭数	検 査 結 果		
			陽 性	陰 性	陽性率(%)
近江八幡市	5	5	0	5	0
甲賀市	1	1	0	1	0
高島市	1	19	5	14	26.3
東近江市	1	3	1	2	33.3
日野町	1	8	0	8	0
竜王町	2	10	7	3	70.0
合 計	11	46	13	33	28.3

⑨牛伝染性鼻気管炎

市 町 名	検査戸数	検査頭数	検 査 結 果		
			陽 性	陰 性	陽性率(%)
近江八幡市	2	2	0	2	0
竜王町	1	3	0	3	0
合 計	3	5	0	5	0

⑩豚コレラ検査

県下飼養豚に対し、遺伝子検査・抗体検査を実施した。

市 町 名	検査戸数	検査頭数	抗 体 検 査 結 果		
			陽 性	陰 性	陽性率(%)
近江八幡市	2	199	28	171	14.1*
高島市	1	14	0	14	0
東近江市	1	23	0	23	0
日野町	1	32	0	32	0
合 計	5	268	28	240	10.4*

*他県発生農家からの陽性豚導入による。

⑪オーエスキー病検査

県下飼養豚に対し、抗体検査を実施した。

市 町 名	検査戸数	検査頭数	抗 体 検 査 結 果		
			陽 性	陰 性	陽性率(%)
近江八幡市	2	46	0	46	0
高島市	1	14	0	14	0
東近江市	1	23	0	23	0
日野町	1	32	0	32	0
合 計	5	115	0	115	0

⑫豚繁殖・呼吸障害症候群

県下飼養豚に対し、抗体検査を実施した。

市 町 名	検査戸数	検査頭数	抗 体 検 査 結 果		
			陽 性	陰 性	陽性率(%)
近江八幡市	2	46	44	2	95.7
高島市	1	14	0	14	0
東近江市	1	23	0	23	0
日野町	1	32	29	3	90.6
合 計	5	115	73	42	63.5

⑬高病原性鳥インフルエンザの強化モニタリング調査

100羽以上の家きんを飼養する農場を対象に、抗体検査を実施した。

市 町 名	検査戸数	検査頭数	抗体検査結果	
			陽 性	陰 性
近江八幡市	5	50	0	50
大津市	2	20	0	20
草津市	1	10	0	10
甲賀市	6	60	0	60
湖南市	1	10	0	10
多賀町	1	10	0	10
長浜市	1	10	0	10
東近江市	6	60	0	60
日野町	1	10	0	10
米原市	1	10	0	10
栗東市	3	30	0	30
竜王町	1	10	0	10
合 計	29	290	0	290

⑭マイコプラズマ病検査

県下に飼育されている種鶏を対象に、抗体検査を実施した。

市 町 名	検査戸数	検査羽数	マイコプラズマ病 (MG)			マイコプラズマ病 (MS)		
			陽 性	疑陽性	陰 性	陽 性	疑陽性	陰 性
日野町	1	102	22	22	58	78	9	15

⑮ニューカッスル病検査

県下に飼育されている採卵鶏および肉用鶏を対象に、抗体検査を実施した。

市 町 名	検査戸数	検査頭数	抗体検査結果	
			陽 性	陰 性
甲賀市	1	10	0	10
東近江市	3	30	0	30
栗東市	2	20	0	20
竜王町	1	10	0	10
合 計	7	70	0	70

(あひる)

市 町 名	検査戸数	検査羽数	抗体検査結果	
			陽性	陰性
甲賀市	1	10	0	10
合 計	1	10	0	10

(種鶏)

市 町 名	検査戸数	検査羽数	抗体検査結果	
			陽性	陰性
日野町	1	22	0	22
合 計	1	22	0	22

⑯高病原性鳥インフルエンザ（簡易検査）

市 町 名	検査戸数	検査頭数	抗体検査結果	
			陽 性	陰 性
近江八幡市	1	1 1	0	1 1
東近江市	1	5	0	5
日野町	1	2 1	0	2 1
合 計	3	3 7	0	3 7

⑰マレック病

市 町 名	検査戸数	検査羽数	検査結果		
			陽 性	疑陽性	陰 性
甲賀市	1	3	2	0	1
日野町	1	1 1	8	0	3
合 計	2	1 4	1 0	0	4

⑱高病原性鳥インフルエンザの強化モニタリング調査（あひる）

100羽以上の家きんを飼養する農場を対象に、抗体検査を実施した。

市 町 名	検査戸数	検査羽数	抗体検査結果	
			陽 性	陰 性
甲賀市	1	1 0	0	1 0
合 計	1	1 0	0	1 0

⑲ニューカッスル病検査（あひる）

100羽以上の家きんを飼養する農場を対象に、抗体検査を実施した。

市 町 名	検査戸数	検査羽数	抗体検査結果	
			陽 性	陰 性
甲賀市	1	1 0	0	1 0
合 計	1	1 0	0	1 0

⑳腐蛆病検査

法第51条により、立入検査を実施した。

市 町 名	検査戸数	検査群数	検査結果		
			陽 性	疑陽性	陰 性
大津市	2	4 2 4	0	0	4 2 4
合 計	2	4 2 4	0	0	8 4 9

㉑伝達性海綿状脳症（緬羊・山羊）

市 町 名	検査戸数	検査頭数	検査結果		
			陽 性	疑陽性	陰 性
大津市	1	1	0	0	1
高島市	1	1	0	0	1
多賀町	1	1	0	0	1
東近江市	1	2	0	0	2
日野町	2	2 0	0	0	2 0
米原市	1	1	0	0	1
竜王町	1	1	0	0	1
合 計	8	2 7	0	0	2 7

(4) 立入検査

法第51条により、伝染性疾病の立入検査を実施し、各疾病の早期発見に努め、防疫の徹底を図った。

①牛の伝染性疾病検査

疾 病 名	検査頭数	患 畜	疑似患畜	健 康
牛伝染性海綿状脳症	2, 0 1 8	0	0	2, 0 1 8
口蹄疫	3, 7 6 7	0	0	3, 7 6 7
ヨーネ病	3, 5 8 4	0	0	3, 5 8 4
牛ウイルス性下痢・粘膜病	3, 9 0 1	0	0	3, 9 0 1
牛伝染性鼻気管炎	1, 5 7 8	0	0	1, 5 7 8
牛ロタウイルス病	2 2 0	0	0	2 2 0
牛パラインフルエンザ	5 2 5	0	0	5 2 5
牛白血病	4, 0 5 3	0	0	4, 0 5 3
牛RSウイルス病	9 0 0	0	0	9 0 0
合 計	2 0, 5 4 6	0	0	2 0, 5 4 6

②豚の伝染性疾病検査

疾 病 名	検査頭数	患 畜	疑似患畜	健 康
豚コレラ	1, 7 2 0	0	0	1, 7 2 0
豚口蹄疫	1, 6 2 0	0	0	1, 6 2 0
オーエスキー病	9 5 0	0	0	9 5 0
豚繁殖・呼吸器障害症候群	1, 4 4 0	0	0	1, 4 4 0
豚インフルエンザ	1, 0 5 0	0	0	1, 0 5 0
合 計	6, 7 8 0	0	0	6, 7 8 0

③鶏の伝染性疾病検査

疾 病 名	検査頭数	患 畜	疑似患畜	健 康
鳥インフルエンザ	2 6 8, 5 5 5	0	0	2 6 8, 5 5 5
マレック病	2 5 3, 5 6 4	0	0	2 5 3, 5 6 4
ニューカッスル病	3 1 9, 6 6 6	0	0	3 1 9, 6 6 6
伝染性喉頭気管炎	5 8, 0 5 5	0	0	5 8, 0 5 5
合 計	8 9 9, 8 4 0	0	0	8 9 9, 8 4 0

④あひるの伝染性疾病検査

疾 病 名	検査頭数	患 畜	疑似患畜	健 康
鳥インフルエンザ	4, 4 0 0	0	0	4, 4 0 0
ニューカッスル病	4, 4 0 0	0	0	4, 4 0 0
合 計	8, 8 0 0	0	0	8, 8 0 0

⑤馬の伝染性疾病検査

疾 病 名	検査頭数	患 畜	疑似患畜	健 康
馬インフルエンザ	3 1 1	0	0	3 1 1
馬伝染性貧血	3 2 9	0	0	3 2 9
合 計	6 4 0	0	0	6 4 0

(5) 証明書発行状況

①法第8条に基づき、下記のとおり検査証明書を発行した。

証明書の種類		畜種	発行件数
検査証明	腐蛆病	蜜蜂	6

(6) 輸出入検疫対象家畜検査状況

輸入家畜の着地検疫検査および輸出予定家畜の飼養場所等における監視伝染病の発生状況の照会に対して回答を行った。

①着地検疫

実施期間	動物種	頭数	輸入先
H30. 4. 10 ~ H30. 5. 1	馬	1	アラブ首長国連邦
H30. 4. 10 ~ H30. 4. 30	馬	7	アラブ首長国連邦
H30. 5. 8 ~ H30. 5. 28	馬	2	香港
H30. 9. 19 ~ H30. 10. 9	馬	2	韓国
H30. 12. 18 ~ H31. 1. 8	馬	1	香港
H30. 12. 20 ~ H30. 1. 8	馬	4	香港
H31. 2. 14 ~ H31. 5. 9	馬	1	ベルギー
H30. 11. 26 ~ H31. 1. 28	アヒル	851	イギリス

②輸出動物の飼養場所等における監視伝染病の発生状況回答

実施年月	動物種	頭数	仕向国
H30. 4	馬	4	香港
H30. 5	馬	4	オーストラリア
H30. 6	馬	2	フランス
H30. 6	馬	1	フランス
H30. 7	馬	4	オーストラリア
H30. 7	馬	1	ドイツ
H30. 8	馬	9	シンガポール
H30. 8	馬	2	韓国
H30. 9	馬	1	イギリス
H30. 9	馬	1	オーストラリア
H30. 10	馬	1	イギリス
H30. 11	馬	1	アメリカ
H30. 11	馬	1	香港
H30. 12	馬	9	オーストラリア
H31. 2	馬	1	韓国
H31. 2	馬	1	カタール
H31. 2	馬	1	オーストラリア
H31. 2	馬	5	アラブ首長国連邦

2) 自衛防疫・自主管理強化総合対策

一般社団法人滋賀県畜産振興協会が自衛防疫業務を実施するにあたり、地域家畜自衛防疫推進協議会に対して、運営指導を行った。

(1) 地域家畜自衛防疫推進協議会

(平成31年3月31日現在)

地域推進協議会	事務局	事務担当年度	構成市町名
高島市	家畜保健衛生所 北西部支所	平成6年度～	高島市

(2) 特定疾病損耗防止事業

一般社団法人滋賀県畜産振興協会が特定疾病損耗防止事業で予防注射を実施するに当たり、事業推進の指導・助言を行った。

単位：頭

市 町	牛異常産三種混合生ワクチン
大津市	1 5
草津市	8
甲賀市	5 4 4
近江八幡市	9 0 4
竜王町	1 6 5
東近江市	8 3 2
日野町	3 2 5
愛荘町	5 2
彦根市	3 6
豊郷町	2 9
多賀町	0
米原市	3 6
長浜市	2 8
高島市	7 7 1
合計	3, 7 4 5

注) 牛異常産三種：アカバネ病、チュウザン病、アイノウイルス感染症

2 家畜検査事業

近年、家畜伝染病の発生地域が世界的に拡大する傾向がある。一方で、畜産物の輸入自由化や人・物の国際交流の拡大により、我が国における新しい疾病の発生や、長期間発生が無かった疾病の再発生などの機会が増大してきている。

平成 29 年、わが国で 26 年ぶりに発生した豚熱(CSF)は、野生のいのししからもウイルスが分離されるなどしており、畜産関係のみならず多方面に様々な影響を及ぼす事態となってきた。また、近隣アジア諸国ではアフリカ豚熱(ASF)の発生が続いており、わが国への侵入のリスクが高まってきている。

このような急性伝染病について、まん延防止対策を迅速に実施するためにも、病性鑑定のための各種検査を迅速かつ的確に実施し、短時間で診断することが強く求められている。

さらに、飼料等の生産資材費や素畜費の高騰が畜産農家の経営を圧迫しており、経営を安定させるために、生産性を阻害する要因を除くことが重要な課題となっている。これらに関して、最近の家畜疾病の発生状況は、生産病的慢性疾病が増加傾向にあることから、こうした疾病への積極的な対応が要請されている。

家畜保健衛生所では、病性鑑定業務の技術および精度向上を図るとともに、各種専門分野から精密検査を行い、総合的な疾病診断を実施している。また得られた知見につて、県下畜産指導機関との連携を密に保ちながら、畜産農家や畜産関係機関へフィードバックを行っている。

1) 病性鑑定実績

畜種	解剖・剖検		精密検査・調査		合計	
	件数	頭羽群数	件数	頭羽群数	件数	頭羽群数
肉用牛	96	96	261	2,821	357	2,917
乳用牛	33	33	496	5,019	529	5,052
豚	7	11	21	280	28	291
家禽	18	53	189	1,598	207	1,651
めん羊 山羊	7	7	23	28	30	35
馬	2	2	0	0	2	2
その他	22	24	2	3	24	27
計	185	226	992	9,749	1,177	9,975

(1)解剖・剖検実施状況

① 肉用牛

診 断	件数	頭数
Mannheimia haemolytica 感染症	3	3
Pasteurella multocida	2	2
Trueperella pyogenes 感染症	6	6
慢性肺炎	3	3
化膿性肺炎	12	12
栄養失調	2	2
壊死性腸炎	2	2
ロタウイルス感染症	1	1
下垂体膿瘍	1	1
化膿性関節炎	1	1
マイコプラズマ肺炎	2	2
肝膿瘍	1	1
敗血症	3	3
腹膜炎	8	8
急性肝炎	1	1
急性鼓脹症	12	12
原発性腫瘍	1	1
誤嚥性肺炎	2	2
事故	2	2
脂肪壊死症	2	2
心室中隔欠損	1	1
腎不全	1	1
第一胃裂孔	1	1
大脳皮質壊死症	1	1
腸管水腫	1	1
腸捻転	2	2
尿石症	1	1
熱射病	1	1
肺気腫	2	2
肺出血	1	1
非化膿性腸炎	1	1
膀胱結石	2	2
膀胱破裂	2	2
ルーメンドリンキング	1	1
不明(感染症)	6	6
不明(非感染症)	5	5
計	96	96

②乳用牛

診 断	件数	頭数
ヨーネ病	4	4
白血病	1	1
化膿性肺炎	2	2
出血性腸炎	2	2
心膜炎	2	2
乳房炎	1	1
腹膜炎	3	3
急性鼓脹症	1	1
食滞	2	2
腸重積	2	2
胎児確認	3	3
子宮裂	1	1
口蓋列	1	1
骨折	1	1
分娩事故	1	1
奇形	1	1
不明(非感染症)	5	5
計	33	33

③豚

診 断	件数	頭数
腸捻転	1	1
尿毒症	1	1
心囊炎	1	1
胸膜肺炎	1	1
不明(感染症)	2	5
豚コレラ	1	2
計	7	11

④家禽

診 断	件数	羽数
マレック病(届出伝染病)	7	18
コクシジウム症	1	3
マレック病+ブドウ球菌症	1	3
IB	1	5
大腸菌症	4	16
熱射病	1	3
卵管閉塞	1	1
不明(非感染症)	2	4
計	18	53

⑤めん羊・山羊

診 断	件数	頭数
肝てつ症	2	2
子宮破裂	1	1
臍脱	1	1
不明(感染症)	1	1
不明(非感染症)	2	2
計	7	7

(2)精密検査・調査実施状況

①肉用牛

検査・調査	述件数	述検体
牛海綿状脳症(BSE)検査	8	8
牛ウイルス性下痢・粘膜病 PCR 検査	39	973
牛ウイルス性下痢・膜病抗原検出 ELISA 検査	16	69
牛白血病 PCR 検査	27	142
牛白血病 ELISA 検査	53	1047
牛白血病血球数等検査	1	2
アルボウイルス抗体検査(アカバネ病)	12	48
アルボウイルス抗体検査(アイノウイルス病)	12	48
アルボウイルス抗体検査(チュウザン病)	12	48
アルボウイルス抗体検査(イバラキ病)	12	48
アルボウイルス抗体検査(牛流行熱)	12	48
ヨーネ病 PCR 検査	1	1
ヨーネ病 ELISA 検査	19	95
牛アデノウイルス PCR 検査	8	45
牛RSウイルス病 PCR 検査	8	45
牛パラインフルエンザ PCR 検査	8	45
牛コロナウイルス PCR 検査	2	3
牛ロタウイルス PCR 検査	2	3
寄生虫検査	1	1
代謝プロファイル検査	7	100
血中ビタミン測定	1	2
計	261	2,821

③豚

検査・調査	述件数	述検体
豚コレラ ELISA 検査	12	166
PRRSELISA 検査	9	114
計	21	280

⑤めん羊・山羊

検査・調査	述件数	述検体
伝達性海綿状脳症	22	22
山羊関節炎脳脊髄炎	1	6
計	23	28

⑥馬

診 断	件数	頭数
事故	1	1
不明	1	1
計	2	2

⑦その他

診 断	件数	頭数
イノシシ 豚コレラ	20	22
蜜蜂 不明	2	2
計	22	24

②乳用牛

検査・調査	述件数	述検体
牛海綿状脳症(BSE)検査	101	101
牛ウイルス性下痢・粘膜病 PCR 検査	44	1,865
牛白血病 PCR 検査	56	423
牛白血病 ELISA 検査	36	1835
牛白血病血球数等検査	3	3
アルボウイルス抗体検査(アカバネ病)	44	126
アルボウイルス抗体検査(アイノウイルス病)	44	126
アルボウイルス抗体検査(チュウザン病)	44	126
アルボウイルス抗体検査(イバラキ病)	44	126
アルボウイルス抗体検査(牛流行熱)	44	126
ヨーネ病 PCR 検査	14	40
ヨーネ病 ELISA 検査	7	23
大腸菌O157 検査	2	6
牛コロナウイルス PCR 検査	1	20
牛ロタウイルス PCR 検査	1	20
乳房炎検査	7	40
寄生虫検査	1	1
肝機能検査	1	10
カビ毒検査	1	1
試料中硝酸態測定	1	1
計	496	5,019

④家禽

検査・調査	述件数	述検体
鳥インフルエンザ・モニタリング(ウイルス分離)	36	360
鳥インフルエンザ・モニタリング(抗体検査)	69	690
鳥インフルエンザ否定	15	60
サルモネラ検査(導入時)	40	291
サルモネラ検査(巡回時)	29	197
計	189	1598

⑥その他

検査・調査	述件数	述検体
野鳥 鳥インフルエンザ簡易検査	2	3
計	2	3

3 家畜衛生に関する事業

各種疾病による家畜の損耗防止と飼養衛生管理の改善による生産性の向上および家畜畜産物の安全性を確保するため、消費・安全対策交付金のうちの「家畜衛生の推進」を主体に各種事業を実施した。

1) 牛海綿状脳症（BSE）検査・清浄化推進

BSEの清浄性を確認するため、48ヵ月齢以上の死亡牛、生前にBSEを否定できない中枢神経症状等の臨床症状を呈した牛、その他BSE検査を行うことが必要と認める牛について検査を実施した。

109頭実施、すべて陰性

2) 監視・危機管理体制整備対策

飼養規模の拡大と流通の国際化の進展により、伝染病発生時の被害は甚大化することが予想される。正確な家畜衛生情報の収集・分析・発信により、自衛防疫の推進を図り、事前対応型の防疫体制の構築とまん延防止体制の確立を図るため、以下の事業を実施した。

(1) 家畜伝染病防疫対応強化

①飼養衛生管理基準・特定家畜伝染病防疫指針普及推進会議

家畜の所有者が飼養衛生管理基準を遵守することによる家畜の飼養衛生環境の向上と、特定家畜伝染病防疫指針に基づく家畜伝染病の発生予防およびまん延防止対策が迅速かつ的確に講じられる体制を構築するため、畜産農家、市町、農業共済組合、農業協同組合、公衆衛生関係者等を対象に地域段階の取り組みを推進する会議を開催した。

開催回数 9回 出席者（延べ）262名

②飼養衛生管理基準・特定家畜伝染病防疫指針指導の推進、普及、強化

農家への立ち入りの際にあわせて飼養衛生管理基準および特定家畜伝染病防疫指針の普及・啓発などの衛生管理指導を実施した。

指導農家数（延べ） 224戸

(2) 家畜衛生関連情報の整備

①情報の収集

家畜衛生に関する情報を、病性鑑定時に行う聞き取り調査等により165戸から収集した。

②広報

家畜疾病の発生情報、調査検査結果、収集情報分析結果および新しい技術の紹介・普及等のための広報紙として、「家畜衛生情報」を発行するとともに、これらの情報は家畜保健衛生所ホームページに随時掲載した。

○家畜衛生情報

・口蹄疫、鳥インフルエンザ関連

口蹄疫発生状況	3回
高病原性鳥インフルエンザ発生情報（国外）	1回

口蹄疫、鳥インフルエンザ等の防疫対策の徹底	6回
野鳥からの鳥インフルエンザウイルス分離	4回
野生イノシシの豚コレラ陽性事例	5回
・牛関連	
牛の異常産予防	1回
サシバエ対策	2回
死亡牛BSE検査情報	3回
異常産予防	1回
酪農技術研修会開催案内	3回
・豚関連	
豚コレラ発生状況（県外）	17回
豚コレラ発生状況（県内）	4回
アフリカ豚コレラ発生状況（国外）	7回
豚コレラ、アフリカ豚コレラの防疫対策の徹底	7回
野生イノシシの豚コレラ陽性事例	5回
・蜜蜂関連	
蜜蜂飼養者への農薬散布情報等	1回
・その他	
暑熱対策	2回
飼養衛生管理基準の遵守の徹底、定期報告書の提出	2回

③防疫マップの整備

重大な監視伝染病の発生に対応する危機管理体制整備の一環として、防疫マップシステムに農家等の情報を蓄積し、活用できる体制を整え、維持更新に努めた。

FAX網整備

一斉通報システムにおいて、収集した農家情報に合わせ、データ更新等の管理を実施した。

県境防疫会議

- ・平成30年10月19日に、大阪府において、三重県、京都府、大阪府、奈良県と府県境防疫会議を開催し、情報交換を行った。

(3)まん延防止円滑化対策

県内での高病原性鳥インフルエンザや口蹄疫の発生を想定して、迅速かつ的確な防疫体制を確立するため、関係機関の職員等による連絡調整会議および防疫演習を実施した。

①連絡調整会議等

開催年月日	検討・協議事項	場所
H30.5.17	家畜防疫にかかる担当者会議	危機管理センター
H30.5.24	家畜保健衛生事業推進会議	G ネットしが
H30.5.30	家畜保健衛生事業推進会議(北西部支所)	北西部支所
H30.6.29	大津地域における家畜防疫担当者会議	危機管理センター
H30.8.22	湖東地域防疫対策会議打ち合わせ会議	湖東合同庁舎

H30. 9. 10	HPAI（健康調査）担当者会議	県庁
H30. 10. 22	大津地域 HPAI 等および FMD 連絡員会議	危機管理センター
H30. 11. 16	湖北地域 HPAI 等対策会議	湖北合同庁舎
H30. 11. 20	南部地域 HPAI 等対策員会議・連絡員会議	南部合同庁舎
H30. 11. 27	滋賀県口蹄疫および高病原性鳥インフルエンザ等対策会議	危機管理センター
H30. 11. 29	湖東地域 HPAI 等対策会議	湖東合同庁舎
H30. 11. 30	甲賀地域家畜防疫対策会議	甲賀合同庁舎
H30. 12. 7	滋賀県口蹄疫および高病原性鳥インフルエンザ等対策会議	危機管理センター
H30. 12. 13	湖北地域 HPAI 対策会議	湖北合同庁舎
H31. 1. 12	高島地域 H P A I 等対策会議	高島合同庁舎
H31. 1. 29	HPAI（健康調査）担当者会議	危機管理センター
H31. 3. 5	家畜防疫にかかる担当者会議	危機管理センター
H31. 3. 20	豚コレラ防疫対応検証会議	所内

②防疫演習等の実施

開催年月日	内 容	場 所
H30. 4. 5～ 19(4日間)	家畜防疫マップシステム操作研修	家畜保健衛生所
H30. 4. 17	所内防疫研修会	家畜保健衛生所
H30. 8. 9	口蹄疫全国一斉机上防疫演習事前研修	家畜保健衛生所
H30. 8. 23	口蹄疫全国一斉机上防疫演習	家畜保健衛生所、 畜産技術振興センター
H30. 8. 25	口蹄疫全国一斉机上防疫演習事後研修	家畜保健衛生所
H30. 10. 3	滋賀県ペストコントロール協会研修会	G ネットしが
H30. 10. 4	平成 30 年度全国高病原性鳥インフルエンザ防疫演習	家畜保健衛生所
H30. 10. 11	滋賀県高病原性鳥インフルエンザ等防疫演習	おくのの運動公園 (東近江市)
H30. 10. 17	湖東地域高病原性鳥インフルエンザ等防疫研修会	東近江合同庁舎
H30. 11. 13 ～14	高病原性鳥インフルエンザ初動訓練	県庁、 危機管理センター
H30. 11. 19	湖東地域 HPAI 運営者ゼミ	湖東合同庁舎
H30. 11. 30	甲賀地域家畜防疫対策会議・研修会	甲賀合同庁舎
H30. 12. 3	湖北地域 HPAI 等防疫研修会	湖北合同庁舎
H31. 1. 31	滋賀県口蹄疫等特定家畜伝染病防疫研修会	県庁
H31. 2. 28	特定家畜伝染病発生時の消毒ポイントの設営・運営にか かる研修会	竜王町カントリーエレ ベーター

(4) 病性鑑定ネットワークの構築

高病原性鳥インフルエンザ等の重要家畜伝染病の検査、診断体制を強化するため、大学・研究施設等を含む病性鑑定施設のネットワーク化を図り、疾病発生時に適切な役割分担の下、迅速な病性鑑定が実施できるように意見・情報交換を行った。

○近畿ブロック病性鑑定ネットワーク協議会

平成 30 年 8 月 27 日 大阪府立大学

(5) 特定家畜伝染病防疫指針に基づく防疫措置

①愛知県における豚コレラの発生状況

a) 農場の飼養状況

農場の所在地：愛知県豊田市
飼養状況：6,530 頭（繁殖豚 1,030 頭、肥育豚 5,500 頭）

b) 経緯

平成 31 年 2 月 4 日 農場から食欲不振・流産等の症状が見られる旨通報
2 月 5 日 6 頭中 5 頭が豚コレラ遺伝子検査陽性、国へ検査材料送付
2 月 6 日 豚コレラ患畜確定

c) その他

当該養豚場から、滋賀県、長野県、岐阜県、三重県、大阪府の 5 府県に出荷されていることが判明。

②本県における疑似患畜の確認

a) 農場の概要

所在地：近江八幡市
飼養状況：肥育豚 699 頭

b) 経緯

愛知県からの情報により、家畜保健衛生所が立入り検査を実施したところ、当該発生農場から、1 月 31 日に子豚 60 頭が導入されていることを確認。
2 月 6 日「豚コレラに関する特定家畜伝染病防疫指針」に基づき国により疑似患畜と判定。
導入豚の遺伝子検査を実施したところ、12 検体中全てで陽性。

③本県の防疫対応

a) 疑似患畜発生農場の防疫措置

1. 殺処分、埋却等の実施

日時		農場 (近江八幡市)	埋却地 (県機関敷地内)
2 月 6 日	10:30	防疫作業開始	
	11:50	殺処分開始	
	16:30	殺処分 140 頭	
	18:15		埋却地への死亡豚搬送開始
	19:00	殺処分 250 頭	埋却開始
	22:00	殺処分 370 頭	
2 月 7 日	2:00	殺処分 525 頭	
	5:50	殺処分 699 頭完了	
	7:45		699 頭の埋却地への投入終了
	21:45		汚染物品（飼料）投入終了
	23:55		埋却終了
2 月 8 日	0:37		消毒、電気柵設置完了
	8:00	清掃、消毒開始	
	17:45	防疫措置完了	

2. 農場消毒の実施

28 日目までの間に、防疫措置完了時の 1 回を含み 1 週間間隔で消毒を 3 回実施
(1 回目：2 月 8 日、2 回目：2 月 18、19 日、3 回目：2 月 25、26 日)

b) まん延防止にかかる対応

1. 消毒ポイントを設置しての畜産関係車両の消毒

設置期間：2月9日から3月5日まで

設置場所：3か所

①県希望が丘文化公園（スポーツゾーン）駐車場

②JA グリーン近江 竜王カントリーエレベーター 駐車場

③東近江合同庁舎 駐車場

消毒台数：延べ761台

2. 野生いのししの感染確認検査

発生以降、農場から概ね半径10キロメートル以内の調査区域内で捕獲された9頭の検査を実施し、すべて陰性を確認。

3. 養豚農家への防護柵の設置

養豚農家5戸6農場を対象に、防護柵の設置に向けた現地調査を実施。

すべての農場において、3月中に防護柵等の設置対策を完了。

④防疫措置の従事者数（2月5日～3月5日、延べ人数）

	県職員	市職員	民間業者	合計
殺処分、農場消毒、 テント基地、通行規制	517	225	82	824
埋却作業	141	—	44	185
集合場所	28	—	—	28
消毒ポイント	42	—	379	421
合計	728	225	505	1,458

3) 生産性向上対策

(1) 慢性疾病等生産性を阻害する疾病の低減

家畜の慢性疾病等の低減を図り、生産性を向上させるため、損耗の多い畜産経営体の生産性阻害状況および衛生状況を調査するとともに、改善のための技術指導を行った。

対象経営体	調査農家 戸数	調査検査延頭羽数	調査検査疾病等
牛	49	2,718頭	牛ウイルス性下痢・粘膜病（サーベイランス検査）
牛	23	199頭	牛ウイルス性下痢・粘膜病（導入牛等検査）
牛	20	1,090頭	牛白血病（乳用牛：サーベイランス検査）
牛	5	155頭	牛白血病（乳用牛：導入牛等検査）
牛	26	1,520頭	牛白血病（肉用牛：サーベイランス・導入牛等検査）
牛	2	128頭	牛白血病（北西部支所）
牛	1	50頭	乳房炎
肉用鶏	1	40,000羽	マレック病

4) 畜産物の安全性向上

高品質で安全な畜産物の供給を確保するため、生産段階での衛生管理の向上を目的とした農場HACCPの普及と衛生状況の検査による飼養衛生管理技術等の改善指導を行った。

また、食中毒原因菌をはじめとする人獣共通感染症の原因となる病原体等の浸潤状況や動態を調査し、その防除対策の確立に努めるとともに、動物用医薬品の適正な使用・管理について調査・指導を行った。

(1) 生産衛生管理体制整備

畜産農家への農場HACCPの円滑な導入と普及定着を図るため、滋賀県養鶏協会をモデル地域と位置づけるとともに、牛ではモデル農家を選定し、農場HACCPの推進に努めた。

○モデル地域実施状況（採卵鶏、肉用鶏）

滋賀県養鶏協会の会員農家17戸を対象として、飼養衛生管理基準の遵守確認、記録の確認、衛生管理マニュアルの更新、導入時や農場のサルモネラ検査の実施等などを行い、農家と問題点の改善方法を協議し、農場HACCP方式に準じた管理について検討した。

○モデル農家実施状況（牛）

肉用牛（肥育経営）3農場を対象として、取り組みを支援した。

農場HACCP認証農場の指定を受けている1農場では、外部HACCPチーム員として定期的に行われるHACCPチーム会議に参加し、一般衛生管理プログラム・HACCP計画の実施状況の確認、衛生管理状況の点検、問題点の検証、内部研修における従事者の教育訓練を行い、平成30年度には農場HACCP認証維持審査を受審し、合格した。

認証農場と同一経営体が運営する1農場は、農場HACCP推進農場指定に向けた指導を実施。平成30年度中に申請を実施した。

農場HACCP推進農場の指定を受けている農場が2農場あり、1農場については、勉強会を開催し、農場の記録を本社と共有するシステムについて検討を実施。もう1農場については推進指定以降の具体的な要請はない。

(2) 鶏卵衛生管理体制整備

衛生的な鶏卵の生産体制整備を進めるため、サルモネラの侵入防止および汚染された場合に清浄化を図るための対策を地域ぐるみで検討実施した。

①サルモネラに関する調査・検査

生産者集団の実施する鶏群へのサルモネラ侵入防止対策の一環として、「鶏卵のサルモネラ総合対策指針」（平成17年1月26日付け第8441号農林水産省消費・安全局衛生管理課長通知）に基づき、鶏舎環境および素雛のサルモネラ検査を実施した。

種 別	調 査 対 象 検 体 数 （サルモネラ陽性検体数）						
	計	送 付 材 料			巡 回 材 料		
		鶏（糞等）	敷 料	そ の 他	周 辺 環 境		
		導入時	導入時		鶏 舎 (通路・糞上)	集卵室	その他
種 鶏	49 (2)	0 (0)	30 (0)	0 (0)	17 (1)	2 (1)	0 (0)
採卵鶏	438 (9)	130 (0)	101 (0)	0 (0)	184 (9)	21 (0)	2 (0)

(3) 動物用医薬品危機管理対策

適正な動物用医薬品の使用を確保するため、家畜飼養者について医薬品の使用実態調査を実施するとともに、薬剤耐性菌の発現状況調査を行い、抗菌剤等の適正使用を指導した。

薬剤耐性菌の発現状況調査

全国技術検討会の取り決めに基づき、指定された菌種（サルモネラ・黄色ブドウ球菌）について、病性鑑定由来の菌株の薬剤耐性の発現状況を調査した。

検査結果・概要

調査期間中の指定された菌種の分離なし

(4) 飼料安全性・品質改善対策

安全な畜産物の生産を確保するため、肉牛、乳牛、豚、鶏飼養農家における飼料の使用状況の調査を行うとともに適正使用の指導を行った。

地域別指導巡回戸数

	乳用牛	肉用牛	豚	採卵鶏	肉用鶏
大津地域	1			7	6
湖南地域		2		8	4
甲賀地域	15	2		10	7
東近江地域	23	35	8	24	12
湖東地域				2	
湖北地域	2	1		2	2
高島地域	8	4		4	4
合計	49	44	8	57	35

4 大家畜（乳用牛・肉用牛）の飼養管理技術指導（※肉用牛は、北西部管内のみ）

乳用牛および肉用牛の生産性向上を目的として、繁殖検診や暑熱対策など繁殖・飼養管理技術の改善指導を行い、乳用牛においては、乳用牛群検定成績を活用した巡回指導や研修会の開催などにも取り組んだ。また、家畜改良の推進のための、ホルスタインや和牛の登録業務を行うとともに、優良な後継牛確保のための技術指導など遺伝的能力の向上に取り組んだ。

1) 飼養管理技術指導

(1) 繁殖検診

NOSAI 家畜診療所や農協等と協力して繁殖検診を実施し、繁殖成績改善指導を行った。

(2) 乳用牛群検定の推進

乳用牛群検定農家：26 戸（平成 30 年 4 月現在）

検定農家に対し、牛群検定成績を活用した巡回指導を行うとともに、NOSAI 家畜診療所および検定員と成績検討会を開催した。

(3) 研修会の開催

酪農現場での指導力・技術力等の向上を目的とし、酪農技術研修会を開催した。

	開催日	主なテーマ	場所
第 1 回	H30. 6. 28～29	牛群検定成績の活用	滋賀県婦人会館、畜産技術振興センター、県内農場
第 2 回	H30. 10. 30	繁殖成績向上	近江八幡商工会議所、畜産技術振興センター
第 3 回	H31. 1. 25	乳房炎対策	アクティ近江八幡

2) 家畜改良の推進

（一社）日本ホルスタイン登録協会が実施するホルスタインの体型調査・牛群審査等への協力や登録に関する実務、（公社）全国和牛登録協会が実施する和牛の子牛登記や基本登録など登録に関する実務を行うとともに、遺伝的情報を考慮した優良な後継牛の確保のための技術指導に取り組んだ。

5 動物薬事

医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律（昭和35年法律第145号）に基づき、動物用医薬品の適正な製造または販売について監視を行うとともに、動物用医薬品販売業許可申請等の事務処理・立入を行った。動物用医療機器の適正な製造または販売、賃貸、修理業についても同法に基づき監視を行うとともに、許可申請等の事務処理・立入を行った。

また、医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律第69条第2項に基づき、動物用医薬品等の製造業者、製造販売業者、販売業者、医療機器販売・賃貸および修理業者の立入検査を実施した。

1) 申請・届出等の状況

(1) 市町別業者数

(平成31年3月31日現在)

市町名	製造業・製造販売業			医薬品販売業			医療機器販売・賃貸業		医療機器修理業
	医薬品	医薬部外品	医療機器	店舗	卸売	特例	高度管理	管理	
大津市			1	3		11	4	4	1
彦根市				2		4			
長浜市						6			
近江八幡市				2		7			
草津市	1				3	3		3	2
守山市					8	3		9	2
栗東市				1	6	3	3	3	
甲賀市	3	2	3		2	7		3	1
野洲市						2	1		
湖南市				1		1			
高島市				1		7			
東近江市				1		7			
米原市						2			
日野町				1		2			
竜王町						1			
愛荘町				1		3			
豊郷町				1		1			
多賀町						1			
計	4	2	4	14	19	71	8	22	6

(2) 申請・届出の事務処理状況

申請・届出の種類	件数						
	製造業・ 製造 販売業	店 舗 販売業	卸売 販売業	特例 店舗 販売業	登録 販売者	高度 管理	管理
許可申請		5		2	—		
許可更新申請	3		2	10	—		—
許可証書換え交付申請					—		—
許可証再交付申請				1	—		—
許可(届出)関係事項変更届	8	33	10	6	—	2	7
指定品目追加申請	—	—	—	1	—	—	—
休廃止届		2			—		0
販売従事登録申請	—	—	—	—	27	—	—

2) 薬事監視強化事業

(1) 立入検査状況

	製造業・製造販売業			販売業			薬局 (動物 用医薬 品取扱 店舗)	医療機器 販売・賃貸業		修理業
	医薬品	医 薬 部外品	医療 機器	店舗	卸売	特例 店舗		高度 管理	管理	
立入検査 対象箇所	4	2	4	14	19	71	8	8	22	6
立入検査 実施箇所	1	2	0	5	4	15	0	0	0	0

6 獣医事

獣医師法（昭和24年法律第186号）および獣医療法（平成4年法律第46号）に基づく届出等の事務処理および飼育動物診療施設の立入検査により管理獣医師等に対する指導を実施した。

1) 届出状況

(1) 飼育動物診療施設

（平成31年3月31日現在）

市町名	施設数		
	産業動物	小動物	計
大津市	3 (0)	31 (26)	34 (26)
彦根市	1 (1)	9 (9)	10 (10)
長浜市	1 (1)	6 (5)	7 (6)
近江八幡市	4 (0)	7 (6)	11 (6)
草津市	3 (1)	15 (11)	18 (12)
守山市		9 (9)	9 (9)
栗東市	12 (6)	3 (3)	15 (9)
甲賀市	5 (4)	5 (4)	10 (8)
野洲市		4 (3)	4 (3)
湖南市	1 (0)	4 (3)	5 (3)
高島市	2 (0)	5 (4)	7 (4)
東近江市	4 (1)	5 (3)	9 (4)
米原市		1 (1)	1 (1)
日野町	2 (0)	1 (1)	3 (1)
計	38 (14)	105 (88)	143 (102)

（ ）内は、X線装置保有施設数

(2) 事務処理状況

事務処理	件数
飼育動物診療施設開設届	10
飼育動物診療施設休止届	0
飼育動物診療施設廃止届	10
飼育動物診療施設届出事項の変更届	26
エックス線に関する届出	
エックス線装置新規設置	0
エックス線装置更新	5
エックス線装置廃止	0

2) 立入検査状況

獣医療法第8条に基づき、飼育動物診療施設の立入検査を実施した。

定期の立入検査	19 件
飼育動物診療施設開設時における立入検査	10 件
エックス線装置の取扱いに係る立入検査	5 件
獣医療法第17条広告の制限に係る立入検査	0 件
薬事法第48条毒薬・劇薬の取扱いに係る立入検査	0 件

7 家畜改良増殖事業

1) 家畜人工授精に関する業務

家畜改良増殖法に基づく家畜人工授精師、家畜人工授精所の許可申請等の事務処理を行った。

(1) 家畜人工授精師免許関係事務

家畜人工授精師免許申請	7 件
家畜人工授精師免許書換交付申請	2 件
家畜人工授精師免許再交付申請	0 件

(2) 家畜人工授精所開設等届出

家畜人工授精所開設許可申請	0 件
家畜人工授精所開設許可取消申請	1 件

III 参 考 资 料

(参 考)

1 学会・業績等の発表

学会・場所・期間等	演 題	発 表 者
第59回近畿ブロック家畜 保健衛生業績発表会 奈良県 平成30年7月20日	高病原性鳥インフルエンザ等防疫演習の成果と 課題 県内の地方病性牛白血病（EBL）対策 リンパ球増多症を呈し肝蛭症（慢性型）と診断 した黒毛和種肥育牛の1例	宮田 朋香 諸岡 剛俊 山本 逸人
第59回全国家畜保健衛生 業績発表会 東京都 ヤクルトホール 平成30年9月26、27日	高病原性鳥インフルエンザ等防疫演習の成果と 課題	宮田 朋香
第24回滋賀県獣医学会 草津市 クサツエステピアホテル 平成31年2月24日	肝蛭症と診断した黒毛和種肥育牛の1例	山本 逸人

2 講習会等受講状況

1) 家畜衛生講習会

研修・講座名	受 講 者	開 催 場 所	研 修 期 間
基本講習会	佐伯 和紀	動物衛生研究所	H30. 5. 14～H30. 5. 25
鶏疾病	古川 桃子	”	H30. 5. 31～H30. 6. 8
獣医疫学特殊講習会	内本 智子	”	H30. 7. 23～H30. 7. 27
総合講習会	渡辺 直人	”	H30. 7. 31～H30. 8. 2
海外悪性伝染病特殊 講習会	加藤 真由子	”	H30. 8. 28～H30. 8. 31

2) 家畜衛生研修会

研修・講座名	受講者	開催場所	研修期間
病性鑑定特殊講習会 (細菌部門)	川副 千晶	動物衛生研究所 海外病研究拠点	H30. 5. 9～H30. 12. 7
生化学	布藤 雅之	動物衛生研究所	H30. 10. 2～H30. 10. 5
ウイルス	古川 桃子	”	H30. 10. 9～H30. 10. 12
病理	山本 逸人	”	H30. 10. 23～H30. 10. 26

3) 中央畜産技術研修会

研修・講座名	受講者	開催場所	研修期間
新任畜産技術職員研修	瀬川 敬世	家畜改良センター	H30. 6. 5～H30. 6. 7
養鶏	佐伯 和紀	”	H30. 7. 17～H30. 7. 20
畜産環境保全	諸岡 剛俊	”	H30. 11. 26～H30. 11. 30

4) 動物用医薬品危機管理対策研修会

研修・講座名	受講者	開催場所	研修期間
平成 30 年度動物用医薬品 危機管理対策研修会	内本 智子	動物医薬品検査所	H30. 5. 30～H30. 6. 1

5) その他

研修・講座名	受講者	開催場所	研修期間
農場 HACCP 指導員養成 研修会	佐伯 和紀	全国家電会館	H30. 9. 11～H30. 9. 13
農場 HACCP 認証取得支援 研修会	宮田 朋香	全国家電会館	H30. 12. 6

3 家畜衛生関係手数料

(平成31年3月31日現在)

区分	項目	単位	金額	備考
証明書	注射、投薬、薬浴および検査 証明書交付手数料	1件 につき	700	牛、豚、馬
	証明手帳に記入して証明する場合		310	”
	輸出される牛肉に係る牛の出生国 および飼育国に関する証明書交付 手数料	1通 につき	350	牛
	頭数当たり	1頭 につき	10	”
家畜 投薬 ・ 注射 および 薬浴 手数料	牛			
	炭疽予防注射	1頭1回 につき	300	流行熱予防液使用 ハダキ病予防液使用
	気腫疽予防注射		450	
	流行性感冒予防注射		400	
	”		400	
	伝染性鼻気管炎予防注射		540	
アカバネ病予防注射		1,050		
馬	流行性脳炎予防注射	1頭1回 につき	510	
	炭疽予防注射		280	
豚	豚コレラ予防注射	1頭1回 につき	190	
	豚丹毒予防注射		210	
	流行性脳炎予防注射		480	
鶏	ニューカッスル病予防注射	1羽1回 につき	10	不活化ワクチン使用
	”		5	生ワクチン使用

家畜 検査 手数料	牛			
	結核病検査	1頭1回 につき	260	再検査は徴収しない ” ”
	ブルセラ病検査		280	
	ヨーネ病検査		670	
	トリコモナス検査		250	
	肝てつ検査		230	
	牛海綿状脳症検査		4,300	
馬	馬伝染性貧血検査	1頭1回につき	1,300	
鶏	ひな白痢検査	1羽1回につき	40	
蜜蜂	腐蛆病検査	1蜂群 につき	60	

区 分	項 目	単 位	金 額	備 考
家 畜 人 工 授 精	家畜人工授精所開設許可	1 件	5,700	
	家畜人工授精師免許申請	につき	1,900	
	家畜人工授精師免許証			
	書換え交付手数料		1,700	
	再交付手数料		1,800	
動 物 薬 事	動物用医薬品販売業			
	許可申請手数料		28,600	
	許可更新申請手数料		10,500	
	許可証書換交付手数料		2,100	
	許可証再交付手数料		3,000	
	動物用高度管理医療機器等販売・ 賃貸業			
	許可申請手数料		28,000	
	許可更新手数料		10,500	
動物用医薬品販売従事者登録				
登録申請手数料		7,500		

4 家畜飼養状況（平成31年2月1日現在）の概要

畜種	飼養戸数 (戸)	飼養頭羽数 (頭・羽)	一戸当たり 飼養頭羽数 (頭・羽/戸)	対前年比				
				飼養戸数	飼養頭羽数	一戸当たり 飼養頭羽数		
				上段:増減比% 下段:増減実数	上段:増減比% 下段:増減実数	上段:増減比% 下段:増減実数		
乳用牛	47	2,705	57.6	94.0 △3	96.2 △108	102.3 +1.3		
肉用牛	計	89	20,262	227.7	94.7 △5	103.0 +585	108.8 +6.6	
	肥育牛	和牛 (4ヶ月以上の育成牛を含む)	85	14,016	164.9	100.0 ±0	104.1 +558	104.2 △10.3
		肉向乳牛	2	117	58.5	40.0 △3	84.8 △21	212.0 +30.9
		F1	29	3,581	123.5	85.3 △5	95.2 △179	111.7 +12.9
		子牛 (4ヶ月未満)	48	697	14.5	111.6 +5	116.8 +100	97.3 △0.4
	繁殖牛 (繁殖目的に飼育している育成牛、子牛を含む)	45	1,851	41.1	104.7 +2	107.4 +127	102.5 +1.0	
豚	計	12	4,096	341.3	120.0 +2	106.8 +267	89.1 △41.6	
	肉豚 (3ヶ月未満の子豚を含む)	6	3,741	623.5	100.0 ±0	107.7 +267	107.7 +44.5	
	繁殖豚	8	355	44.4	133.3 +2	100.0 ±0	75.0 △14.8	
採卵鶏 (100羽未満を含まない)	33	366,046	11,092.3	94.3 △2	100.5 +1,840	106.6 +686.4		
肉用鶏 (100羽未満を含まない)	11	79,504	7,227.6	100.0 ±0	90.8 △8.062	90.8 △732.9		